

# こうちミュージアム ネットワーク通信

## 目次

## CONTENTS

- 土佐の文化財「自浦戸到幡多倉橋図」・・・ P 1
- 随想「龍馬伝の風」・・・ P 2
- 文化の言葉「ジオラマ」・・・ P 2
- 研修会「文化財保存環境“光と証明”の基礎」・・・ P 3
- 時の話題「新温室オープン！」・・・ P 3

- 幕末維新の土佐「志の時代展」・・・ P 4
- 現場通信「豊永郷文化の保存」・・・ P 6
- 展示会批評「土佐藩歴代藩主展 | N宿毛」・・・ P 7
- 図書窓「指定管理者制度-文化的公共性を支えるのは誰か-」・・・ P 7
- 情報コーナー / 会員一覧・・・ P 8

## 土佐の文化財



### ◆自浦戸到幡多倉橋図

宿毛歴史館に収蔵されているこの巻物は一体なんだろう。

藩政期の宿毛領主が伝えた「伊賀家資料」に含まれるこの資料には、浦戸湾の入り口から現在の「カルポート」あたりまでの水運が、川岸の様子とともに描かれている。

それにしても、なんとにぎやかなこと。川面では舟遊びや漁の網、岸では慌しい往来に、赤い敷物での楽しい宴。今にもまちの喧騒や喝采が聞こえてきそう。

「幡多倉」は、やはり幡多に関連する倉庫なのだろうが、詳細は一切不明。巻物にも登場する「幡多倉橋」が現代の橋にも刻まれていて、確かに倉が存在していた名残をとどめている。

実は良く似た資料が、「浦戸湾風景」という題で、(財)土佐山内家宝物資料館に収蔵されている。

こちらは掘詰まで描かれているが、構図やモチーフ、タッチや色彩まで酷似していて、密接な関係を疑う余地はない。さらに高知市民図書館にも類する資料があり、時代考証や目的など、今後も興味の尽きない資料である。

(宿毛歴史館学芸員 矢木伸欣)



# 龍馬伝の風

高知県立歴史民俗資料館

館長 宅間 一之

坂本龍馬生誕地前の歩道は今朝も賑やかである。十人近い若者が歩道をふさぎ、遠慮がちに走る自転車も気にとめず熱心に看板を読みふけている。ブルーの制服の案内人と談笑しながら近藤長次郎の屋敷跡から鏡川の方向にむかうご婦人の一団もいる。どこかの高齢者団体であろう。

龍馬は確かに人を呼んでいる。先日のドラマは武市瑞山や岡田以蔵は苦笑しているであろう山本琢磨の処置であった。ドラマとしては面白く、主役龍馬へ視聴者の関心を集めようとする意図を酌めば、歴史と違うと腹を立てても仕方あるまい。ドラマが面白ければ、人々の足もまたその舞台となった場に向かうからこれも面白い。

龍馬の風は確かに吹いている。これに連動して「こうちミュージアム ネットワーク」にもかなり強力な風が吹き、多くの県民を歴史の舞台に引かない続けている。

高知県を一つのミュージアムに仕立てることをめざした「幕末土佐を知る合同企画」、前期には十四館が連携し合同で実施した十九事業も終わろうとしている。後期には二〇館三五事業が予定され着々と準備は進んでいる。企画の拡大と充実ぶりは喜ぶたいものである。

「幕末ゆめ道場」の十一会場の講演も聴衆の心をとらえ魅了した。激動の時代を彩った志士たちの動きを、

歴史の切り口だけでなく、文学や漫画、絵画など多様な角度から追究した講演会は他の団体ではできない企画であり、各地域やミュージアム側からも事業継続の声は多い。

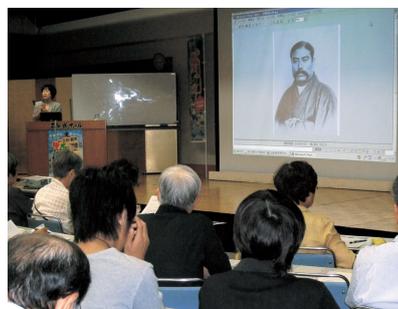
龍馬伝の風を今年だけの一過性のものにしないうちにも、龍馬だけでなく新しい時代の到来を信じて懸命に生き、活動した多くの人達の故郷を知り、彼らの軌跡を求めてもらうと企画した「幕末維新の土佐 探訪図絵」の人氣は高かった。これから後の活用も意識しての編集であったが、発刊と同時にほとんどの館で品切れとなった。これはいま人々が求め期待しているもの、知りたい意欲と関心の高さのバロメーターでもある。幕末維新の土佐を探る貴重なハンドブックとして長く生き続けていける確信をうることができた。

高知には多くのユニークなミュージアムが全県に散らばって存在する。散在を難点と指摘する向きもあるが、この散在するミュージアムこそ、それぞれの土地で地域活性化の「核」となり「種」となる可能性を持っているともいえる。地域の歴史や文化に触れ、それを知り語ることの重要性は今更いまでもなく、その発信の拠点的役割を背負うものでもある。今回のような連携による企画の充実や関連する企画によって、より広い視野からのアピールによって、ミュージアムへの関心を高め盛

り上がる。そこそ、それが地域振興を呼びまたミュージアムの活況を誘うものとなるであろう。

## いま地

地域の振興・活性化をめざしてのボランティアガイドの活動はめざましい。しかしそれ以上に専門性を誇る地域ミュージアム等の学芸員による地域ガイドは重要である。積極的にミュージアムから外に、地域に出で地域の人達やそこを訪ねる人々に触れてこそ、人々のニーズは伝わり、人々の興味や関心も探ることができる。企画展で入館者を持つ姿勢だけでなく、積極的に外に出て地域を探ることが重要である。その意味からも地域のミュージアムが中心となり、巡回講座や文化団体との協働により、巡回講座をより拡大・充実しての地域啓蒙も、これからの地域ミュージアムのあり方を示唆するものではなからうか。



## ジオラマ

博物館における展示形態の一つに、『ジオラマ』と呼ばれるものがある。フランス語の「diorama」に由来するもので『生態展示』と訳され、動植物（人間を含む）を実物そっくりりに製作した模型（動物の場合は剥製のこともある）を自然の状態で配置し、多くの場合バックにパノラマ遠近法で絵を描いて奥行き・広さを持たせ、遠近感や臨場感を味わわせる展示形態である。

## 文化の言葉

当館には二つのジオラマがある。すなわち、『アカガシ原生林のジオラマ』と『シルル紀の海底ジオラマ』である。前者は、日本唯一とも

言われる横倉山におけるアカガシの原生林の一部を再現したものである。樹齢数百年のアカガシの巨木を中心に、周りの植物と森に生息する野生動物を自然の状態で展示している。動物は剥製であるが、植物に至っては葉の一枚一枚すべてがレプリカで、樹木（倒木）についても本物と見誤るほどのものである。バックは原寸大の写真で、ジオラマは2階から3階の吹き抜けにセットされ、日本有数（東洋一）の規模の森のジオラマと言われている。一方、後者は、横倉山が

つて赤道近くにあった約4億年前のサンゴ礁の海底の様子を再現したものである。生物については、化石に基づいて細部に至る模様までリアルに再現しており、『世界一』の出来栄えとの監修者の御墨付きである。海流を想定した生物の動きのある生態の他、照明を使って浅海底に太陽光がさんさんと降り注いでいるような動きの演出を試みるなど、小規模ながら極めて精巧にできたジオラマである。

ジオラマには、あたかもその場にいるような臨場感を見る者に与える効果がある。  
（横倉山自然の森博物館学芸員 安井敏夫）

# 研修会

## 文化財保存環境

### 光と証明の基礎

講師の吉田直人氏より「エッセンス」をいただきました。

3月15日の研修会には、多くの方にお越しいただきありがとうございました。90分の時間を頂きましたが（少しオーバーしてしまつて恐縮です）、伝わりきれなかった面も多かったと思いますので、この場をお借りし、エッセンスを改めて記したいと思ひます。

あらゆるモノは、光に照らされている限り、必ず程度の差こそあれ変化が起こります。染料などでは変色や退色、紙や繊維では変色や脆弱化などです。光によるこのような変化を完全に防ぐには真つ暗にするしかありません。「保存と公開」の矛盾とも言えます。では、展示を行う限り劣化は防げないのか？ということになります。その答えは、Yes ですが、劣化の進行を遅らせることは可能です。そのためにはまず、見るのに必要ない（つまり見えない）光は当てないことが重要です。ハロゲンや蛍光灯からは紫外線や赤外線といった私たちには見えない光が放射されています。見えないにも関わらず、劣化を引き起こします。文化財施設、特に展示室には、これらの光をカットする機能を持つ照明器具（美術館・博物館用蛍光灯やダイクロハロゲン）を使うことが必須です。また、鑑賞に不可欠な光（可視光）は、資料に当たる総量、つまり明るさ（照度）と照射時間を掛け合わせた量（積算照度）を減らすことが肝心です。照明学会が資料の材料（光に対する脆弱性）に応じて3段階の推奨値を提示していますので、これを下回るように照明を調整することを願ひします。しかし、あまりに暗いと、来館者には見え辛いということにな



ります。保存と鑑賞の快適性を両立するには、暗くても見えやすい照明計画を工夫する必要があります。これらの点については、「文化財保存環境学」（朝倉書店）にも詳細に記してありますので手にとってご参考にしていただければと思います。また、次年度より、大学の学芸員課程で必須になる「資料保存環境論」を念頭においたテキストを準備しているところですので、ここにも照明についての項目が記載されます。

照明は、温湿度や空気環境といった他の劣化要因に比べると、コントロールはしやすいといえますが、外光が入る場合などはそれでも対策に苦慮することもあるかと思ひます。そのような時は、どうぞ遠慮なくご相談をお寄せ下さい。

東京文化財研究所 保存修復科学センター  
主任研究員 吉田直人

## 二二年度活動報告

平成二二年度は幹事館が高知市立自由民権記念館になりました。また「幕末維新の土佐企画実行委員会」を設置しました。

【企画調整部会】  
総会 土佐山内家宝物資料館（4月15日）  
会報誌8号編集

【研修企画部会】  
研修会（4月15日）  
「幕末土佐・龍馬の基礎知識」  
講師：三浦夏樹氏

施設見学会（2月24日）  
北川村立中岡慎太郎館常設展示  
リニューアル

報告：「文化施設の改修にあたって」  
中岡慎太郎館を事例に  
講師：豊田満広氏（同館学芸員）

研修会（3月15日）  
「文化財保存環境、光と照明の基礎」  
講師：吉田直人氏（東京文化財研究所 保存修復科学センター）

【教育普及部会】  
「こうちミュージアムネットワーク  
専門的職員リスト2009」作成  
ホームページの更新

【幕末維新の土佐企画実行委員会】  
「志の時代展」ポスター、チラシ製作  
幕末ゆめ道場「幕末維新の土佐」  
博物館学芸員巡回講座  
県下11会場、講師のべ33人、参加684人

【幕末維新の土佐 探訪図会】発行

【新入会員】  
四万十市立郷土資料館  
NPO法人黒潮美感センター  
高知県文化・国際課

【その他】  
ごめん・なはり線と電車で文化施設へ（小学生体験乗車に合わせた施設利用案内）



## 新温室 オープン!

2010年4月24日（土）、牧野植物園の南園に新温室が、いよいよオープンします。旧温室の床面積を2倍の約1000㎡に拡張します。入り口の高さ9mにもなる「みどりの塔」を抜けると、鮮やかな熱帯の森が目の前に広がります。植物を様々な角度から見る事ができる半地下構造のユニークな室内では、姿の美しいトックリヤシモドキといった多種多様なヤシとともに巨大なタコノキが佇み、ヒカゲヘゴのジャングル、南米原産のヘリコニアやカラテアなど四国初登場の珍しい植物もご覧いただけます。

熱帯アジアの雰囲気にも温室の魅力の一つ。熱帯地方の民家を再現し、現地をよく見られるゴールデンシャワーや芳しいキンコウボク、ココヤシとともに、小川の水の音なども取り入れ、まるで旅行にいったかのような雰囲気になります。他にも、10種類以上のバナナやカニステル、レイシ、コシヨウ、ニクズクなど世界各地の熱帯果樹や香辛料も展示しています。

また、ヒスイカズラや、世界最大級を誇る竹のゾウタケ、タビビトノキ、サボテン類、食虫植物など旧温室からの仲間も一緒に皆様をお待ちしています。この春からは、四季折々の草花をはじめ、南園「50周年記念庭園」の伝統園芸植物、新温室の熱帯植物、企画展など見どころ盛りだくさんです。お楽しみに。

（高知県立牧野植物園 広報担当 小松加枝）



# 幕末維新の土佐

# 志の時代展

担当者の一言

## 高知県立図書館

### 「龍馬おもしろ大百科」

#### 観光情報エクスチェンジ

写真・イラスト・地図等をつんだんに使って、龍馬や弥太郎ゆかりの人物や土地を紹介。県内の観光スポット・地場産品なども併せて紹介しています。展示している写真は、担当が休暇返上で県内外の史跡を撮りまくった力作です。担当の汗と涙と、手作り感たっぷりの展示をぜひご覧ください。また県外の龍馬ゆかりの土地の図書館と連携し、互いの土地の歴史・観光情報などの交換展示も随時実施中。(渡邊哲哉)



## 佐川町立青山文庫

### 「時代の拍子木」

#### 坂本龍馬とその周辺のひとびと

当館では、現在「時代の拍子木」の坂本龍馬とその周辺のひとびと」を開催しています。これは、NHK大河ドラマ「龍馬伝」に対応した展示で、龍馬の人氣にあやかり、佐川にも足を運んでもらおうという狙いで企画しました。あまり商売気を前面に出したくはないですが、高知の中央から少し離れた小さな町にある当館にとっては、存在を知ってもらおう良い機会です。日々の喧騒から離れて、静かに昔を感じてみませんか？(藤田有紀)



## 土佐山内家宝物資料館

### 「土佐藩 維新の群像」展

大河ドラマと当館の文学館特別会場展示開始にさきがけ、土佐藩が輩出した志士たちを予習できる展示を、と取り組んだ企画です。とはいえ館蔵資料から資料を選ぶのは、山内家資料の性格上かなり困難な作業でした。さらに来年度貸出予定の資料を一度は館で公開しておきたいとの思いも重なり、やや偏った資料構成となってしまう。企画意図からすると十分な展示ではありませんが、来館者には幕末の雰囲気だけは感じてもらえたのではないかと思います。(1月25日終了)(藤田雅子)



## 安芸市立書道美術館

### 「岩崎彌太郎と書道の里 安芸」

安芸には、土佐藩家老五藤氏の乗弊学舎を始め、多くの塾や寺子屋があり、そのような好学の土壌の中で、彌太郎の才が育まれた。彌太郎を育てた学者や文人たちは互いに広く交流し、上士、下士、町人などの身分を越えた交流もみられたことがわかっている。今回は、彌太郎に関係する知識人を中心とした小規模な展示となったが、今後も安芸の文人や「知のネットワーク」の広がりを課題として、取り組んでいきたい。(小林和香)



## 安芸市立歴史民俗資料館

### 「弥太郎の夢」

今回の展示では、弥太郎の「夢」をキーワードにタイトルをつけましたが、想像以上に弥太郎の資料がなく、苦労しました。また、弥太郎の夢は、初め学問で身をたてたいということでしたが、長崎に行き、海

運業で世界を相手に仕事をしたいという夢に変わっていききました。そこがうまく展示で描けず、弥太郎の生涯を追う内容の展示になってしまいました。今年は、弥太郎に関する企画展を次々行う予定ですのでご期待下さい。(1月31日終了)(門田由紀)

## 香美市立やなせたかし記念館

### 「お〜い！童馬」原画展

展示した原画は142ページ分。ストーリーを補足する漫画コピーや歴史解説パネル等を併せると、計算上、必要な壁の総延長は100m。会場の広さからいうと無謀な量ではありましたが、今回漫画の絵の良さを覚えてもらうと同時に、龍馬の一生もダイジェストに紹介したい、という企画趣旨からして、外せないものばかり。「23巻のコミック本を30分で立ち読みできる」を目標に、迷路のような展示壁が立ち並んでいました。(2月15日終了)(田所業穂子)



## 高知市立自由民権記念館

### 「龍馬の遺志を継ぐもの」

常設展示の「近代土佐の先人」部屋を改装し、小企画展を開催できるようにしました。今年には龍馬を意識しつつ「当館ならではの」視点から「龍馬の遺志を継ぐもの」をテーマに、4回の展示を開催します。この機会に龍馬以後を考えてみたいと思っているところです。幸徳秋水の特別展もあり、ハードな一年となりそうです。(筒井秀一)



## 高知市立龍馬の生まれたまち記念館

### 「おりよう物語〜夢追い人の龍馬を追って〜」

後世に伝わる資料がほぼ残っていないおりようの生涯。龍馬と共に過ごした時間は長くはなかったですが、その後の人生も含めて、少しでも皆様に彼女の人の人となりを感じ取って頂けたらと資料収集しました。龍馬に聴かせようと、おりようが習い弾いたと伝えられている長崎の小曾根邸に所蔵されている月琴をお借りするために、二度長崎へ。龍馬とおりの街を歩きながら想いを馳せました。(2月7日終了)(上野麻衣)



## 横山隆一記念まんが館

### 「まんが・漫画・マンガ展」高知漫画集団・高知漫画グループくじらの会合同原画展」

春の恒例・高知漫画集団と高知漫画グループくじらの会による「まんが・漫画・マンガ展」。今年は両集団が「龍馬」をテーマに競作を発表。「今」に生きるまんが家ならではの視点で切り取った龍馬の姿を表現しました。また、まんがライブラリーには「坂本龍馬登場作品コーナー」を設置。様々なまんが家が描いた龍馬をご覧いただけます。龍馬を知る入門編としても、ぜひご利用ください。(3月31日終了)(奥田奈々美)



## 北川村立中岡慎太郎館

### 「幕末土佐『志士』の群像」

中岡慎太郎は友人に宛てた手紙の中で「立派な人間になるのは、家が金持ちかか

はなく、その人の心懸けと実践にある」と書きました。慎太郎を始めとする土佐勤王党の「志士」たちは、身分が低く、裕福ではありませんでした。しかし彼らは新しい時代をつくるため命をかけて行動しました。そんな志士たちの個性や情熱を紹介します。(豊田満広)



**定福寺宝物館・定福寺豊永郷民俗資料館**

**「幕末維新の土佐の山間」**  
—定福寺と豊永郷—

幕末から明治。それは欧米の思考方法を積極的に導入する時代でした。近代化という様々なものを削ぎ落とす合理化は、生活を便利にしてきた反面、縄文時代以来の日本の文化・構造を変化させました。その激動の時代、山間地域にある豊永郷の人々がどのように生活し、僧侶が何を思考し行動したのか。また江戸期にどのような仏像がもたらされたのか、幕末から明治期を中心に、日本の原風景が残る豊永郷を様々な資料展示により紹介します。(釣井龍秀)



龍馬と同じ時期に活躍した、土佐の芝居絵師・絵金。彼が大成した土佐芝居絵屏風は、ときには血しぶきが飛ぶ描写があったりと、「おどろおどろ」のイメージを持つ方が多いのではないのでしょうか？  
今回展示する絵金の「白描(はくびよう)」は、主に墨線のみでシンプルな描写で、絵

**「絵金白描」展**



金の力強い線描やデッサン力、ユーモアを堪能できるはずですが。絵金の「おどろおどろ」だけではない、技術に裏付けられた表現者としての姿を感じていただけたらと思います。(横田 恵)

**四万十市立郷土資料館**

**「坂竜飛騰」龍馬を見抜いていた男**  
土佐西部勤王党首領 樋口真吉展

坂本龍馬より20歳年長で父親のように慕われ、龍馬を見抜いていた幕末の志士「樋口真吉」。真吉のひ孫、樋口文太郎さん(四万十市)の厚意で寄贈された真吉の日記や手紙、書などを小野義廣先生(黒潮町)に解説していただきご示教を得ました。龍馬と深いつながりのあった郷土の偉人「樋口真吉」の存在を、県内外の多くの方に知っていただき、「土佐・龍馬であい博」の賑わいが当市へも広がればと思っています。皆様のご来館をお待ちしています。(夕部収一)



**香美市立吉井勇記念館**

**「吉井勇没後50年展」**

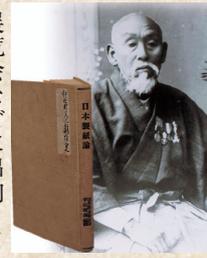
最近、吉井勇の小説「或日の龍馬」が注目を浴びました。彼は歌人として、また文人として幅広い分野で活躍し数多くの作品を残しています。この小説もその中の一つです。彼の生んだ作品は、制作当時の心の変遷や生活環境がたいへん影響しており、それらが素直に表現されています。彼の波瀾に満ちた生涯と人となりを知った上で作品を見れば、より深い感動を覚えることができるはずですが。没後50年という節目に、もっと勇自身を知ってもらい、彼に親しんでもらいたいです。そんな思いで開催します。(泉 由巳)



**いの町紙の博物館**

**「源太の手紙・龍馬の手紙」展**

吉井源太は日本紙業界の恩人といわれる人物です。源太は龍馬より9歳年上で同時代に活躍した二人。源太も和紙の普及のため各地へ指導や展覧会などに出向きました。どこかで出会っていたかもしれませんが。だったら二人の手紙を土佐和紙の産地いので出会わせよう。二人の生き方を伝える手紙を比較解説する、和紙の世界では龍馬に匹敵する源太の多大な功績を、多くの人に知っていただく企画です。(高橋正代)



**高知県立歴史民俗資料館**

**2010年NHK大河ドラマ**  
特別展「龍馬伝」

日本を今一度せんたくいたし申候！近代日本への道を開いた「英雄」坂本龍馬。その彼も、時代の怒濤の中、悩み、苦しみながら、自らの進むべき道を追求めていた「人間」でした。本展は、龍馬の遺品や書類類、幕末の状況を伝える史料などで構成し、高知チームの高知県立坂本龍馬記念館・北川村立中岡慎太郎館・当館と江戸・京都・長崎の博物館が協力して立ち上げます。(岡本桂典・三浦夏樹・豊田満広)



**宿毛歴史館**

**「維新の群像展」**

(財)土佐山内家宝物資料館巡回展で、同館と安芸市立安芸歴史民俗資料館との企画展同時開催。



巡回展で土佐の維新史を大観しながら、岩崎弥太郎を支えた小野義真など、宿毛がこの時代に多く輩出した人材をその背景とともに紹介します。宿毛の幕末維新は明治に結実する躍動です。その息吹を展示に吹き込みたいと思います。(矢木伸欣)

**高知県立美術館**

**「坂本龍馬の時代**  
幕末明治の土佐の絵師たち」(仮称)

坂本龍馬ら維新の志士たちが活躍し礎を築いた幕末明治。同時代に画業を展開した絵金や河田小龍、徳弘董斎、国沢新九郎ら個性溢れる土佐の絵師たちの作品を一堂にご紹介します。高知ゆかりの作家作品は当館コレクション展(常設展)・企画展で随時ご紹介していますが、幅広い時代・ジャンルの作品を順番に展示しているため、いつでもご覧いただけるわけはありません。ぜひこの機会に、文化面でも大きな変化のあった幕末明治の美術を堪能していただけたらと思います。(後藤雅子)



**坂本龍馬記念館**

**「龍馬のルーツ」**

龍馬記念館では、「志の時代展」の第一弾として「龍馬のルーツ」展を開催している。龍馬の発想の原点を探ることが目的で、平成二二年度の「薩長同盟を支えた男たち」展や「風になった龍馬」展に繋がる展示として位置づけている。坂本家は、豪商才谷屋から分家して郷土になった家で、龍馬は商人的・武士的な考え方の両面を持っていた。大河ドラマ第1話・第2話で過剰に描かれた土佐藩の身分問題にも触れながら展示をおこなった。(3月31日終了)(三浦夏樹)



## 豊永郷文化の保存



### 現場通信

存された民具は取り返しのつかない状態になっています。

定福寺に民具が収集されたきっかけは先代義光僧正が、豊永郷から集められた鉄製品を売買していた古鉄商から昭和三十年に茶釜を求めたことでした。戦後の日本の目覚ましい技術の進歩は、山村の生活をも一変させました。古い道具は捨てられ、また山を降りはじめの人々が多くなっていたのです。このままでは今まで豊永郷を支えてきた道具は失われてしまうと考え、義光僧正と現住職龍宏僧正が法事などに行つては民具を集めてきました。収集された民具数百点は当時境内に併設されていたユースホステルに展示されました。宿泊に来た学生がこの活動の重要性を感じ、本格的な収集活動が学生と共に始まりました。数千点集まった際、大豊町が保存するということで了承し寄贈いたしました。収集活動に携わった

やっつです。レヴィイ・ストロースのいう「対称性の思考」を持つ人々の社会では「籠る」ということが人生において重要な行為として語られています。私が豊永郷の民具に出会って十三年の年月が過ぎ去りました。この期間、民俗資料を通じて高知県立歴史民俗資料館の歴代館長様、学芸員の先生方、またあらゆる分野の先生方と出会う機会を頂きご教授を賜りました。そう考えれば十三年の「籠り」は好機だったのだと思います。しかし、その間にも保

しかし住民感情が許さないとのことで所有権は譲渡されませんでした。この点大変苦慮いたしました。定福寺の許可なしに移動させない等のいくつかの取り決めをし、平成十九年七月大豊町と覚書を交わすことで、民具が保存される可能性が高まりました。早速保存会を立ち上げ、活動を開始し、平成二十一年十一月には「NPO法人定福寺豊永郷民俗資料保存会」（以下保存会）として認証され新たな活動の段階へとステップアップいたしました。

豊永郷の民具の保存ということから出発した保存会でしたが、民具は豊永郷の人々の生活なくては語るできませんでした。収集された民具の中には全国的に希少な物もあります。保存会が注目するもう一つの側面は、鋸や鎌など柄などの人が触れていた部分です。決して楽な環境ではない豊永郷で家族を養い、子供を育てるためにひたすらに豊作を願い、また良い木が育つように、良い絹がとれるようにと使われてきたまさしく「祈り」を持った道具なのです。人が触れていた部分には汗が染み込み、手垢が染み込み、道具によっては手形が残っています。これらの道具のお陰で豊永郷に関係する人々は現在各地で活躍できているのです。百年経って豊永郷から離れ活躍している人たちがルーツを探した時に必ず、この道具にたどり着きます。そこで先人がどんな思いで、豊永郷で生活

してきたのかを知ることになるのです。また山間部が八十四%を占める高知県にとって、山が中心にある四国にとつて、山の文化を無視して文化を語ることはできません。

文化は、ある日突然、一人の人間が作り上げるものではないように思われます。多くの人や物、思考が行き交う中でその土地や環境にあったものが根付いて文化になるのだと思います。文化は生活であり、生きることが文化となるのだと思います。保存会では将来にわたり豊永郷のあらゆる文化の保存活動を行い、広く豊永郷の素晴らしい文化を知っていただき、保存活動につながればと考えています。活動の一環として、平成二十一年度から「豊永郷文化講座」を開始し、また『文化の道』という青写真も描いております。高知県は南北の道を中心に文化が語られますが、山の文化を語る上で東西の山の道は外せません。これらの山間の道にある各地域の様々な文化をつなぐ『文化の道』ができれば嬉しく思います。

保存会では「科学の知」という切り離す力ではなく、「文化の知」（中村雄二郎は「神話の知」といつているが）と言いつなぐ力を支えに活動を続けていきたいと思えます。

皆様のご指導、ご助力をよろしくお願いいたします。

（NPO法人 定福寺豊永郷民俗資料保存会 釣井龍秀）

# 展示会批評 宿毛市立宿毛歴史館 (土佐山内家宝物資料館 連携企画展) 土佐藩歴代藩主展ⅠN宿毛

会期：平成二十二年十一月二〇日(金)～十二月三日(水・祝)

JR高知駅から特急に揺られ、土佐くろしお鉄道を乗り継いで約二時間。宿毛は山内一豊の甥・可氏が六千石を領有して以来、代々が幕末まで統治し、土佐藩政とも関わりが深かった地域として知られる。

こうした歴史的背景をもとに開かれた「土佐藩歴代藩主展ⅠN宿毛」は、(財)土佐山内家宝物資料館(以下、山内)が毎年開催している企画展から、郷土と関連の深いものを抽出した連携企画だ。展示に地元資料を加えることで、双方のつながりを身近に感じてもらい、企画展をきっかけとした継続的な相互交流も目的という。

宿毛市立宿毛文教センター三階にある歴史館。企画展の展示室に入ると、郷土出身の彫刻家・本山白雲が造った一豊像の縮小版がお出迎えしてくれた。地元の人々にとっては嬉しい演出だろう。展示では山内所蔵資料を主としながら、可氏の母・通(一豊の姉)の遺品「北方様所用熊川茶碗」(妙栄寺所有・宿毛市指定文化財)や宿毛三代領主・節氏の「清文公一代記」なども紹介。肖像画のエピソードや藩主の人柄の説明は親しみの持てる内容で、読んでいて飽きない。山内が用意したパネルなどは、限られたスペースでは窮屈にも感じられたが、全体的にコンパクトにまとまった展示だった。

展示室の入り口付近には、子ども向けの歴史図書の読書コーナーも。地域の



歴史に加え、歴史全般への興味を持ってほしいとの願いが込められていた。連続歴史講座や学校への出張講座など、地域に根ざした取り組み、山内まで足を運ぶ遠方の方々への機会提供を目的とした企画展として印象深かった。

私が勤める県立文学館はお城のふもとであり、展覧会やイベントがあれば、県内各地から足を運んでくださる方々がいる。それは職員のみならず、交通手段がなく「遠い」といった理由で来館をあきらめたり、情報さえ得られない方も多数いる。では、すべての方々にいかんして「機会」を提供するべきか。

展示批評に当たっては公共交通機関を使い、できるだけ遠方の館を選んだ。安芸市内も訪ねたが、市立の歴史民俗資料館と書道美術館などではNHK大河ドラマ「龍馬伝」を迎える地域ぐるみでの準備が整っていた。こうした点を踏まえると、宿毛は山内家つながり、芸は「土佐・龍馬であい博」に連動した県内十四館合同企画展「志の時代展」の一環として、いずれも「連携」を意識した展覧会だった。企画展を含めて県内各館が連携してこそ、多くの人が展示資料に触れる機会をつくり出せるはずだ。そのためには、現行のミュージアムネットワークを一過性のものとせず、その機能を最大限に生かせる取り組みを摸索する必要があるだろう。

(高知県立文学館 森 香奈子)



## 窓の図書

制度が新しくなるといって、ちよっとした騒ぎになるが、いったん導入されてしまうと、もうすでにそこにあるという事実性を前に、すべての議論は沈静化する。見慣れた光景である。近年の博物館業界でいえば、国立博物館の独立行政法人化、そして指定管理者制度の本格的導入がこれにあたるかもしれない。

本書が発行されたのは二〇〇六年。地方自治法が改正され、公の施設の管理委託先に制限がなくなつて三年目にあたる。

全体を「指定管理者制度を問ひ直す」「指定管理者制度導入にあたって」「指定管理者になつて」の三部に分け、研究者、公共施設の現場担当者、すでに活動を始めた指定管理者ら十三人の執筆者が、力のこもった論文、報告を寄せている。この当時、いかにこの問題が論議を呼ぶものであつたかが伝わってくる。

ここから四年が経過しようとしている。指定管理者制度の導入は着々と進んできた。そして四年前のような盛り上がりはもはや見られない。しかしもちろん本番は、今、あるいはこれ

## 指定管理者制度

— 文化的公共性を支えるのは誰か —

からである。編者の小林真理氏は「指定管理者の事業をどのように評価するか」が重要であると指摘している。この課題は、いまでもそのまま課題として残されていないだろうか。博物館の将来をよめるものにしていくには、指定管理者が達成したことを正当に評価するとともに、問題点はきちんと洗い出すことが必要だろう。例えばこの課題のように、日常化する中で見えづらくなりつつある指定管理者制度の諸問題を、再認識するきっかけを与えてくれるのが本書である。

参考資料として、指定管理者制度に関する法令等が種々収録されているのが大変ありがたい。落ち着いたところで、もう一度指定管理者制度についてじっくり考えるには、格好の一冊である。

(高知市立自由民権記念館 中村茂生)



小林真理編著 時事通信社  
二、八〇〇円 二〇〇六年

# 会員一覧

※21年度幹事館

入会を希望される方は事務局  
県文化財団 TEL 088-866-8013まで

- 安芸市立書道美術館
- 安芸市立歴史民俗資料館
- いの町紙の博物館
- いの町立吾北中央公民館
- 絵金蔵
- 絵金資料館
- 香美市立美術館
- 香美市立やなせたかし記念館
- 香美市立吉井勇記念館
- 黒潮実感センター
- 高知県文化国際課
- 高知県文化財団
- 高知県立足摺海洋館
- 高知県立坂本龍馬記念館
- 高知県立図書館
- 高知県立のいち動物公園
- 高知県立美術館
- 高知県立文学館
- 高知県立埋蔵文化財センター
- 高知県立牧野植物園
- 高知県立歴史民俗資料館
- 高知こどもの図書館
- 高知市生涯学習課
- 高知市春野郷土資料館
- 高知城懐徳館
- 高知女子大学総合情報センター図書館
- 高知市立市民図書館
- 高知市立自由民権記念館
- 高知市立龍馬の生まれたまち記念館
- 国際交流の館ジョン万ハウス
- 子どものための民具体験館
- 金剛頂寺霊宝館
- 佐川町立佐川地質館
- 佐川町立青山文庫
- 四国自然史科学センター
- 四万十市立郷土資料館
- 四万十町立美術館
- 定福寺宝物館
- 定福寺土佐豊永万葉植物園
- 定福寺豊永郷民俗資料館
- 宿毛市立坂本図書館
- 宿毛市立宿毛歴史館
- 須崎市立図書館
- 竹林寺宝物館
- 土佐市立市民図書館
- 土佐山内家宝物資料館
- 中岡慎太郎館
- 中村時計博物館
- 平和資料館草の家
- 横倉山自然の森博物館
- 横山隆一記念まんが館
- 龍河洞博物館
- 龍馬歴史館
- わんぱくこうちアニマルランド

## 個人会員

林 一将 (古溪城)

## こうちミュージアム ネットワーク通信 第8号

■平成 22 (2010) 年3月 31日

■編集 こうちミュージアムネットワーク  
企画調整部会

〔県立坂本龍馬記念館／高知市立自由民権記念館／横山隆一記念まんが館／県立歴史民俗資料館〕

■事務局 (財) 高知県文化財団

■電話 088-866-8013

■印刷 川北印刷(株)

# 情報コーナー

## INFORMATION

### ◆ 展示会 ◆

#### 〔安芸市立歴史民俗資料館〕

- 弥太郎とゆかりの人たち  
2月6日(土)～平成23年1月30日(日)
- 本宮ひろ志原画展  
まんがが見る 岩崎弥太郎(仮称)

#### 〔安芸市立書道美術館〕

- 岩崎弥太郎と書道の里 安芸 第二期  
9月9日(木)～平成23年1月10日(月)

#### 〔北川村立中岡慎太郎館〕

- 幕末土佐「志士」の群像  
4月29日(木)～6月28日(月)
- 土佐勤王党盟主 武市平平太の手紙  
― 拝啓 おとみ殿 ―  
7月10日(土)～10月11日(月)

#### 〔香美市立やなせたかし記念館〕

- やなせたかしのまんが展(詩とメルヘン絵本館)  
3月17日(水)～5月17日(月)
- 「くまのがっこう」絵本原画展  
(詩とメルヘン絵本館)  
5月半ば～7月上旬
- 「山田かまち」展(詩とメルヘン絵本館)  
7月末～9月末
- 龍馬の描いた夢のその後― 坂本直行展  
11月～平成23年3月

#### 〔香美市立吉井勇記念館〕

- 吉井勇没後五〇年展  
9月8日(水)～12月5日(日)

#### 〔絵金蔵〕

- 絵金白描展  
7月13日(火)～7月19日(月)

#### 〔定福寺宝物館・定福寺豊永郷民俗資料館〕

- 幕末維新の土佐の山開―定福寺と豊永郷  
4月1日(木)～平成23年2月28日(月)

#### 〔龍馬歴史館〕

- 龍馬と弥太郎コーナー  
1月1日(金)～平成23年1月

#### 〔高知県立歴史民俗資料館〕

- 土佐勤王党盟主 武市平平太の手紙  
― 拝啓おとみ殿 ―  
4月24日(土)～6月20日(日)
- NHK大河ドラマ特別展「龍馬伝」  
7月31日(土)～8月31日(火)
- 幕末維新土佐庶民生活誌  
10月8日(金)～11月23日(火)

#### 〔高知県立美術館〕

- サンデー・マガジンのDNA  
― 週刊少年漫画誌の五〇年 ―  
4月29日(木)～7月11日(日)
- 話の話(ロシア・アニメーションの巨匠ノル  
シュテイン&ヤールブルフ)  
7月18日(日)～9月26日(日)
- 第六四回高知県美術館展覧会  
10月8日(金)～10月24日(日)
- 幕末明治の土佐の絵師たち(仮称)  
10月31日(日)～12月12日(日)
- ミスマ・コレクション  
ポップ・アート 1960's → 2000's  
12月19日(日)～平成23年3月27日(日)

#### 〔高知県立埋蔵文化財センター〕

- 考古資料からみた高知県の歴史  
4月20日(火)～6月25日(金)
- 四国地区埋蔵文化財センター巡回展  
第二回「統」発掘へんしー弥生時代―  
7月5日(月)～8月31日(火)
- 道路開発であられた遺跡展Ⅳ  
― 都市計画道高知山田線に伴う発掘成果から ―  
9月28日(火)～11月27日(土)
- 土佐の古墳  
12月24日(金)～平成23年3月18日(金)

#### 〔高知県立図書館〕

- 龍馬おもしろ大百科+観光情報エクスチェンジ  
3月27日(土)～6月24日(木)
- 龍馬から弥太郎へ・三菱の誕生  
6月26日(土)～9月23日(木)
- 日本を今一度せんたくいたし申し候  
9月25日(土)～12月26日(日)

#### 〔高知県立牧野植物園〕

- 牧野植物園研究活動展  
― 植物研究がもたらす豊かな暮らし ―  
3月20日(土)～9月9日(日)

#### 〔高知県立文学館〕

- 大河ドラマの軌跡と文学  
4月4日(日)～6月27日(日)
- 吉井勇没後五〇年展(仮称)  
9月23日(木)～11月7日(日)

#### 〔高知県立坂本龍馬記念館〕

- 「龍馬」と「啄木」―二人の目線―  
4月17日(土)～7月16日(金)
- 薩長同盟を支えた男たち  
7月17日(土)～10月8日(金)
- 風になった龍馬「てん」時代の力―  
10月9日(土)～平成23年1月10日(月)
- 龍馬の先を駆けつけた男!吉村虎太郎  
4月1日(木)～7月16日(金)

#### 〔土佐山内家宝物資料館〕

- 開館一五周年記念「山内容堂」  
4月23日(金)～6月27日(日)
- 土佐藩歴代藩主  
7月9日(金)～9月30日(木)
- それぞれの明治維新  
10月8日(金)～平成23年1月10日(月)

#### 〔高知市立自由民権記念館〕

- 龍馬の遺志を継ぐもの  
4月11日(日)～6月27日(日)
- 龍馬の遺志を継ぐもの  
第二弾 坂本直寛の生涯  
11月1日(木)～5月9日(日)

#### 〔高知市立足摺海洋館〕

- 春のウミウシ展  
4月29日(木)～5月9日(日)

#### 第三弾 海外に新天地を求めて

- 7月10日(土)～9月26日(日)
- 幸徳秋水展―その生涯と思想―  
9月11日(土)～11月14日(日)
- 龍馬の遺志を継ぐもの  
第四弾 中江兆民から幸徳秋水へ  
10月9日(土)～12月19日(日)

#### 〔高知市春野郷土資料館〕

- 幕末の古文書―土免定  
3月25日(木)～4月28日(水)
- 中世の台所  
5月21日(金)～6月24日(木)

#### 〔高知市立龍馬の生まれたまち記念館〕

- 龍馬ゆかりの人物展(仮称)  
7月24日(土)～8月20日(金)
- 純信・お馬展(仮称)  
平成23年1月9日(日)～2月6日(日)

#### 〔佐川町立青山文庫〕

- 時代の拍子木  
― 坂本龍馬とその周辺の人びとI ―  
平成21年10月10日(土)～6月27日(日)
- 時代の拍子木  
― 坂本龍馬とその周辺の人びとII ―  
6月29日(火)～平成23年1月30日(日)

#### 〔四万十市立郷土資料館〕

- 「坂竜飛騰」龍馬を見抜いていた男  
土佐西部勤王堂首領 樋口真吉展  
7月30日(金)～11月30日(火)

#### 〔宿毛市立宿毛歴史館〕

- 維新の群像展「宿毛」(仮称)  
10月1日(金)～11月3日(水)

#### 〔いの町紙の博物館〕

- 源太の手紙、龍馬の手紙展  
7月31日(土)～8月29日(日)

#### 〔高知市立足摺海洋館〕

- 春のウミウシ展  
4月29日(木)～5月9日(日)